

水路の学習資料



水はみんなの生活になくてはならないものだよね。その水を、使う所までとどけるのが「水路」だよ。水路がないと水がひつのような所までとどかないんだ。今日は、その水路のしくみやはたらき、れきしについてみんなで学んでみよう。



年 組 名前



はじめに

とちかいりょうく 土地改良区

ってなんだろう？



「土地改良区」は、田んぼに水を運ぶ水路やため池を
守り、管理しているところだよ。

どんな山の中でも、多くの家が建ちならぶ中にも、田んぼがあるところには田んぼで使う水とその水を流すための水路があります。そして、そこには必ず水と水路を守っている人たちがいます。そうした人たちの団体が「土地改良区」です。



田んぼにそぐ水は、お米を育てるばかりでなく、水辺に生きているたくさんの生き物たちのいのちをはぐくんでいます。きらきら光る水の中は、生き物たちのいきいきランド！さまざまな生き物たちがくらしています。



わたしたちも、きれいな水を守り、もっともっと自然とふれあい、たくさんの生き物たちといっしょに安心してくらせるまちづくりを考えましょう。



みどり

水土里ネット とは…
土地改良区の愛称です。

「水」 ◇◇◇ 農業用水 (川・湖や沼・地下水など)

「土」 ◇◇◇ 土地・農業・土じょう

「里」 ◇◇◇ 農村空間や居住空間

「ネット」 ◇◇◇ 農業用水路のネットワーク

ゆたかな自然や美しい景観を意味した文字をならべ、おいしい水・きれいな空気など、清らかなイメージをあらわしています。





これから勉強する

水路

って何？

水路には実は2種類あるんだ！

用水路（ようすいろ）・・・これからみんなが使う水を運ぶ水路

排水路（はいすいろ）・・・家とかでみんなが使った水が流れている水路



その水路には

どんなはたらき

があるの？



水路には、下の絵のような**5つのはたらき**があるんだよ。その水路がきちんとはたらくように管理（かんり）をしているのが改良区の仕事なんだ。



水路の歴史

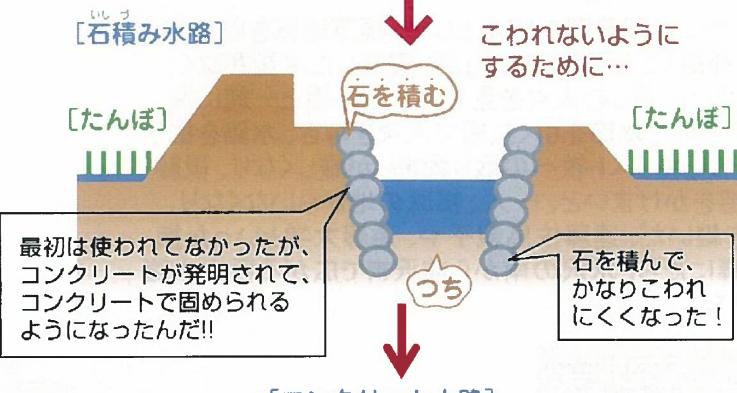
【はじめは？】



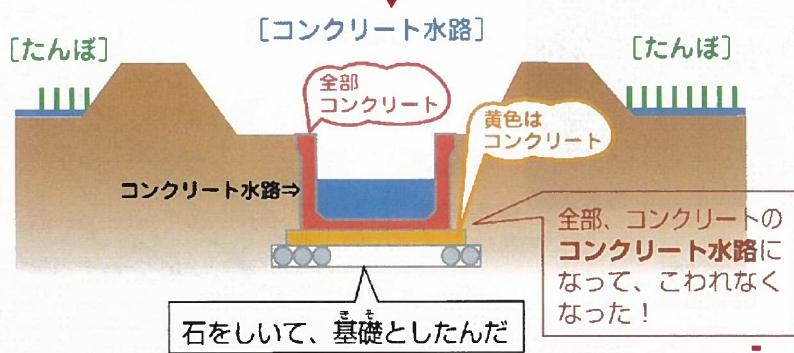
はじめのころは土だけだから、雨がふるとくずれやすくてたいへんだったんだ。



石がつみ重ねられて、こわれにくくなったね。



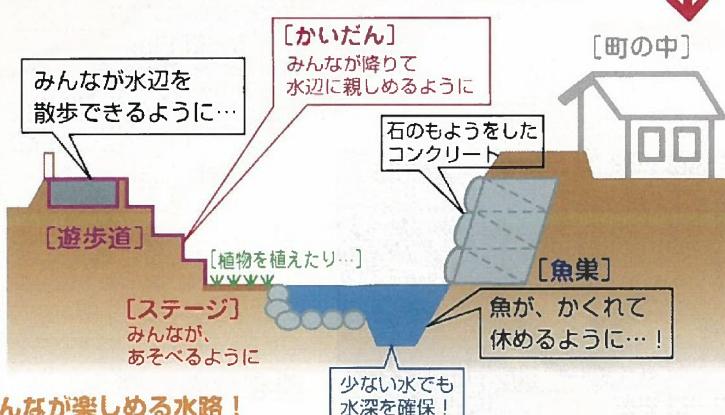
今はコンクリート水路になったからこわれることはなくなったんだ。



でも、全部コンクリートにすると、魚や植物は少なくなった。水路に親しむところも……

魚などの生き物がくらせるような水路や、みんなが楽しめるような水路もできてるよ。

みんなが楽しめる水路！
魚や植物にもやさしい水路！



茂井羅堰（しげいらぜき）

江戸時代初めごろにはすでにそんざいしていたとされる水路で、胆沢平野の北の方（佐倉河や水沢図書館のあたり）をうるおしている。胆沢川から水を取り入れている水路である。

この水路は、むかし北郷茂井羅（きたごうしげいら）という女人が人々の先頭にたち、水路をひらいたと言われていますが、くわしい事はわかっていない。

今は茂井羅堰の一つに、通称「乙女川」という水路がある。堰の内公園や、水沢図書館の横の公園、田んぼアートで有名な河口公園を通り、今では農業用用水の他に水と親しむ遊び場としても茂井羅堰は使われている。



北郷茂井羅 想像図

寿安堰（じゅあんぜき）



じゅあんさん
の像だよ



安定した水量がなく、洪水や干ばつに苦しむ人々を見て、キリスト教といつしょに海外から伝えられた水を引く技術で人々をみちびき、水路をほり進めた。だが、キリスト教への取りしまりがきびしくなり、寿安はめいわくをかけまいと、一人ふくはらの地からいなくなり、その意思をついだ人たちが先どうにたち、水沢の南から前沢まで広がる巨大水路を完成させた。



げんざい
現在の茂井羅堰



げんざい
現在の寿安堰



土地改良区の仕事は 他にどんな仕事 をしているの？



土地改良区は水路にかんけいする仕事だけではなく、**田んぼのほ場整備**（ほじょうせいび）・除塵機（水路を流れるかれ葉などのゴミをすくい上げて通水をきかいする機械）等の施設（しせつ）の管理、修繕（しゅうぜん）・小学校出前じゅぎょう授業など一年を通してさまざまな取り組みをしているんだ。

田んぼの「ほ場整備」ってどんなことをしているの？

小さくてととのっていない、水はけの悪い田んぼは機械が使えなくて作業がたいへんだったんだ。それに、はなれた所に田んぼがあると、行ったりきたりがたいへんで作業する人もたいへんなんだ。そのなやみを、かいげつするのか**ほ場整備**なんだよ。



田んぼをほ場整備するとは…

★大きく区切る

★道路を広くする

★新しい用水路・排水路を作る



そうすると…

★水はけもよくなり、大きな機械もスイスイ動かせるようになってはたらきやすくなります。

せいびまえ
整備前



せいびご
整備後



◇胆沢平野の特徴◇

地形

北は胆沢川、南は白鳥川、東は北上川に縁取られた扇形の地形「扇状地」。扇形の半径が約20kmで、扇状地面積はおよそ15,000haもあり、日本最大級の広さを誇る。

長い歴史の中で地形が変化し、複数の河岸段丘を形成しながら現在の扇状地ができあがった。扇状地の最も高い位置にある段丘は「一首坂段丘」と呼ばれ、以下、北に向かって4つめに高い「福原段丘」にみられる小さな突起が、標高113.4mの見分森である。



景観



胆沢平野の景観の最大の特色は、屋敷林(イグネ:屋敷の周囲に防風や防火のために植えた植林)に囲まれた家々が水田の中にポツンポツンと点在する散居景観である。このような集落を散居集落という。



水利開発の歴史

水利とは、水を利用すること。現在、胆沢平野には茂井羅堰(しげいらぜき)、寿安堰(じゅあんぜき)、穴山堰(あなやまぜき)、西南部水系という4つの水系がある。

もともと、この胆沢平野には、川が胆沢川しかなく、稲作には不向きな土地であった。だが、先人達は、ノミや金槌などの道具や馬や牛などを使い、長い年月をかけて、水利施設を作った。

その水路開発を先導したのが「北郷茂井羅(きたごうしげいら)」という女性と、「後藤寿庵(ごとうじゅあん)」という男性だったと言われており、現在の水系名の由来となっている。

昔の人がこの地域の発展の要となる水田のための水路を開拓し、何年もかけて、その水路を守っているのが胆沢平野土地改良区である。

昔は、枯れ果てた土地だった胆沢平野が今は日本有数の水田地帯となっている様を見せてほしい。



お米の収穫(しゅうかく)までの一年～ダイジェスト～

<田起こし>

稻(いね)を植える前の
かわいた土をほり起こして
細かくくだく作業。田うちとも
言う。

<代掻き(しろかき)>

田植のために田に水を入れ、土をくだいてかきならす
作業。ひりようをませたり、
表面をならしたり、みずの
にごりをおさえるごうかがあ
。田こきとも言う。

<田植え>

育てた稻の苗(なえ)を
田んぼに植える作業。むか
しは手で植えていたが、今
は大型機械で植えるのが
ほとんどである。

<中干し(なかばし)>

稻の成長とちゆうで、田ん
ぼの水をぬき、田の表面
の土をかわかさ作業。稻を
強くするごうかがある。

<稻刈り(いねかり)>

秋に実った稻をかりとる作
業。かり入れとも言う。

このほかにも、たくさんのお作業をしておいしいお米ができるんだ。



まとめ

☆初めて知ったこと、びっくりしたことなど思ったことを書きましょう。

ホームページも、情報（じょうほう）盛りだくさんだからみんなぜつたいみてね！



みんなの授業風景もホームページで紹介するよ！



いさわへいや

検索



胆沢平野土地改良区（水沢区字北田 140-1）